

鳥取市は「中核市」をめざします



地方自治法が今年5月に改正され、中核市の要件を人口30万人以上から20万人以上に緩和することで中核市と特例市の制度が統一されました。今後、山陰東部全体が活力のある地域として発展し、みなさんにさらに充実した行政サービスを提供できるように、本市は、中核市移行に向けた検討を進めます。

問い合わせ先 本庁舎総務課 TEL 0857-20-3102
 ※本市の人口は20万人を下回っていますが、既に特例市であるため、平成32年3月末までならば、中核市へ移行できます。

特例市として地域の発展に成果

本市は市町村合併を経て、平成17年に山陰で初めて特例市へ移行し、市民の身近な「環境」や「まちづくり」などの事務が直接行えるようになり、また、特例市となり、市のイメージアップが図られたことで、さまざまなイベントや大会の誘致などに効果が上がっています。

さらに、平成22年には近隣の自治体と「鳥取・因幡定住自立圏」を形成。山陰東部圏域の中核として、近隣自治体と一体となって地域の活力の創出に取り組んでいます。人口減少や少子高齢化が進

む中、本市は、医療・福祉関係施設の整備や工業団地の整備による産業集積の推進、高速道路網の整備や鳥取空港の5便化など社会基盤の整備を進めてきました。今後も、関西、山陽と山陰を結ぶ交流拠点として、大きな発展の可能性を秘めています。

よりきめ細やかな行政サービスが可能に

日本の大都市制度には、人口規模に応じて「政令指定都市」「中核市」「特例市」の3つがあります。それぞれの制度に応じて都道府県の事務権限の一部が移譲されます。このうち、中核市は、政令指定都市（大阪市、岡山市な

ど20市）に次ぐ都市制度として平成7年に創設されました。現在、郡山市や姫路市など43市が指定されています。中核市になると、特例市の権限に加え、民生、保健衛生、環境保全、都市計画などの事務権限を受けることができます。つまり、市民に身近な問題を市が独自に解決したり、市民の意見や要望を素早く施策に反映させたりするなど、市民生活に密着した事務を一体的に行うことで、よりきめ

細かな行政サービスが提供できるようになります。

山陰東部の発展に向け圏域をリードする

この度の地方自治法改正により、本市が中核市になると、近隣の自治体と「連携協約」を結ぶことで「地方中枢拠点都市」となることができますようにになりました。

政令指定都市や中核市は、地方中枢拠点都市として、圏域全体の経済成長のけん引、生活関連機能のサー

ビスの向上、高度で専門的なサービスといった都市機能の集積などの役割を担うことが期待されています。そして、国はこれを財政的に支援することになりました。本市の中核市への移行は、本市だけでなく山陰東部圏域全体の発展に大きく寄与することになります。

中核市になることで県から受ける主な事務

事務分野	主に処理する事務
民生	身体障害者手帳の交付 養護老人ホームの設置認可・監督 母子・寡婦福祉資金の貸付け など
保健衛生	地域住民の健康保持、増進のための事業の実施 飲食店営業等の許可 浄化槽設置等の届出受理 温泉の利用許可 など
環境保全	ばい煙発生施設の設置の届出受理 産業廃棄物の収集運搬業者や処分業者に対する措置命令 など
都市計画	屋外広告物の条例による設置制限 など
地方教育	県費負担教職員の研修 など

J2 復帰へ！ ガイナールレ鳥取を 応援しよう！

8月3日は鳥取市全体でガイナールレを応援する日

8月3日（日）は、まち全体でガイナールレ鳥取を応援するホームタウン・デイです。

対戦相手は、3月に引き分けたツエーゲン金沢。午後5時キックオフです。たくさんのお客さんの熱い声援で選手たちを後押ししてください。

ホームタウンデイは、市内の小・中学生が無料。また、市内に在住・在勤の人は、バックスタンド自由席を、一般前売価格1000円で購入できます。販売場所は、(株)SC鳥取東部事務所（西町一丁目）、ヲサカ文具店（栄町）、ガイナールレポプラ鳥取布勢公園店（桂見）など。詳しくは、ガイナールレ鳥取ホームページ（<http://www.gainare.co.jp/>）をご覧ください。



G's Deli を楽しむ観客

スタジアムグルメを食べ、力強い声援を送ろう

当日は、お楽しみイベントやステージイベントなど、子どもも大人も楽しめる企画が満載。また、スタジアムグルメ「G's Deli」では、多彩なメニューが勢ぞろい。ここでしか味わえない「G's Deli」オリジナルメニューや季節限定メニューもたくさん。イベントやグルメも楽しめるという観客に、ぜひお越しください。

岡野GMと本音で語り合おう

クラブ・サポーターの垣根を越えて

ガイナールレ鳥取がJ3の舞台で戦いを繰り広げる一方、市内の飲食店では、今シーズンから「野人語り場」というユニークな取り組みが始まりました。これは、ガイナールレ鳥取の岡野雅行GMをはじめ、クラブ、サポーター、行政など、あらゆる立場の人間が1つのテーブルを囲み議論を交わしているもので、シーズン開幕から月に1度開催されています。

で、入場料を無料にしてはどうか、「試合前に保育園児がピッチでできる催しをすると盛り上がる」など、思い思いにアイデアを出し合いました。その他、「選手補強のために寄付を募るのはどうか」などの意見も。ホームタウン・デイに向け、アイデアが具体化できるように、今後も取り組みは続きます。

5月19日、3回目の語り場が開かれました。この日の参加者は14人。8月3日に行われる鳥取市ホームタウン・デイの集客と企画がテーマです。開幕戦では、約4000人が観戦に訪れましたが、それ以降は、2000人前後を推移しています。「より多くのみなさんに会場に来てもらい、試合やスタジアムの雰囲気を楽しんでほしい」。参加者の思いは1つです。「8月3日は6000人以上を集めたい」、「砂の美術館の年間パスポートの提示か購入

